

実施計画事業名		廃棄物最終処分事業		評価対象年度	平成 23 年度			
評価担当部署		生活福祉部衛生課		課長(主幹)名	田端 義親			
総合計画体系	分野	3	環境・生活					
	政策	3	環境問題への積極的な取組					
	施策	2	循環型社会の形成を図ります					
	関連施策							
現状と課題	家庭系ごみにおける一般ごみは、市が収集し埋立て処分する。この最終処分場の建設及び管理運営事業。また、産業廃棄物は、排出者責任で処理する事になるが、稚内市は施設整備し管理運営を行っている。建設費用が莫大となる処分場の延命のための中間処理施設の整備のほか、ごみ減量化に向けた対策が課題である。							
目的	廃棄物の適正処理							
5ヶ年展開の	<p>◆一般廃棄物処分場・産業廃棄物処分場の適正な管理運営の継続及び受入れ終了した処分場の閉鎖管理の着手</p> <p>◆一般ごみ収集の継続並びに平成23年度の生ごみ分別収集に向けた収集回数・収集体制の検討と車両整備の検討</p> <p>* 現在稼働中の一般廃棄物最終処分場は、平成19年10月に稼働開始(平成31年9月までの12年間の使用を想定)している。また、産業廃棄物最終処分場は、平成16年10月稼働、平成22年9月までの7年間の使用を想定していたが、土木・建設工事の減少やリサイクル法の施行等の要因により、搬入量が想定よりかなり減少しており、当面使用可能な状況である。</p>							
成果指標	名称		単位		22年度	23年度	25年度	
	一般廃棄物最終処分場残容量率		%	目標	71.3	63.4	49.9	
	説明		(残容量/全体容量)×100(全体容量258,550立方メートル) ※各年3月31日現在	実績	71.4	64.4		
活動指標	名称		単位		22年度	23年度	25年度	
	最終処分場で処理した一般廃棄物の量		トン	目標	13,211	12,884	6,555	
	説明		最終処分場で埋立てした一般廃棄物の量(その他事業系含む)					
	実績		15,497	13,714				
	家庭系ごみ排出量		トン	目標	7,380	7,235	6,092	
	説明		家庭系ごみの排出量(資源物を除く)					
	実績		7,671	7,211				
	事業系ごみ排出量		トン	目標	5,831	5,649	4,762	
説明		事業系ごみの排出量(その他事業系含む)						
実績		7,055	6,534					
産業廃棄物最終処分場残容量率		%	目標	84.4	81.9	76.9		
説明		(残容量/全体容量)×100(全体容量96,506立方メートル) ※各年3月31日現在						
実績		87.8	86.3					
事業費の実績		単位	22年度 (決算)	23年度 (評価年度決算見込)	24年度 (予算)	備考		
	直接事業費(A)		千円	340,431	366,627	372,506		
	国庫支出金		千円	0	0	0		
	道支出金		千円	0	0	0		
	起債		千円	0	0	0		
	その他		千円	94,293	103,082	99,012		
	一般財源		千円	246,138	263,545	273,494		
	この事業にかかる職員数		人/年	1.53	2.05	1.52		
人件費(B)		千円	10,390	14,256	10,570			
計(A+B)		千円	350,821	380,883	383,076			
状況変化	<p>実施計画当初(平成21年～)からの状況変化</p> <p>平成21年度から、家庭系一般ごみの有料化及び大型ごみ、事業系・産廃系の処理料金を改定。</p> <p>平成23年度から、事業系 10kg40円→55円 産廃計 10kg70円→85円に処理料金の改定。</p> <p>平成23年7月から生ごみの分別収集の開始に伴い、一般ごみ収集が週1回となったが、12月より週2回に変更。</p>							

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測)
	a a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある) <cの場合は、なぜかを分析して記入する>
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか
	b a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する> 処分量はリサイクルやごみ分別・排出抑制を含む各種減量化の結果として得られるため、本事業評価においてはごみ関連事業全体として評価されるべきものと思う。
各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要
	<bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
コ ス ト 効 率	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか
	a a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総 合 評 価	A 概ね問題なし
	<A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する> 一般廃棄物処分場及び生ごみ中間処理施設の建設最終年となり、7月より生ごみの分別も始まりごみ有料化を含めて種々取組が進められた結果、処分場の約3年以上の延命化が考えられるが、一層のごみ減量化に向けた活動を継続していく。

【2次評価】

成 果	a	細事業の構成	b	細事業の進め方	a	コスト効率	a
総 合 評 価	A 概ね問題なし						
	<2次評価者の視点からコメントを記入する> 産業廃棄物最終処分場についての検討を、早急に行う必要がある。						

【内部評価委員会】

意 見	
--------	--